



ただいまと
おかえりなさいが
待つ街へ

うすい卓也 たくや
28歳

後援会のご案内

うすい会に ご入会いただけませんか？

後援会といっても堅苦しいものではありません。
入会金や会費等は一切頂きません。
私の考え方に賛同していただき、一緒にこの街を
良くしたいとお考えの方々と、繋がりや輪を拡げて
いきたいと思っています。
またボランティアサポーターとして、
右記のような活動に興味や
関心のある方も、ぜひご連絡を
よろしくお願いいたします。



ミニ集会の開催

少人数でも構いません。自治会やご友人の集まり
に呼んでいただければ、日程と時間を相談の上
お伺いいたします。

ポスティング

私の政策や活動内容を載せたリーフレットやニュー
ースを、ご近所や職場、またはご友人、ご親戚など
にお配りいただけませんか。

ポスターの掲示

ご自宅の壁や塀、道路沿いの田や畑などに、私の
ポスターを貼っていただけませんか。

政策立案

「こうすればもっと良い街になる!」そんな生きた声
を市政に反映させるため、アイデアや意見をぜひ
お聞かせください。

学生インターン

政治に興味がある学生の方も、興味がない学生の
方も、百聞は一見に如かず。実際に現場に立って、
私と一緒に活動をしてみませんか。

■連絡先

うすい卓也 後援会事務所

〒634-0063 奈良県橿原市久米町544-101
[TEL] 080-1465-0224 [MAIL] ustk.0224@gmail.com
[WEB] <http://usui-takuya.jp/>

Profile

白井 卓也

うすいたくや

1988年2月24日生まれ

血液型 O型

身長/体重 175cm/65kg

略歴

- ・奈良県立畝傍高等学校、
関西大学 卒業
- ・元飲食系ベンチャー企業
取締役
- ・元馬淵澄夫事務所
インターン
- ・現在、橿原市内にある
教育会社顧問を務める

趣味

- ・映画鑑賞
- ・読書
- ・スポーツ
- ・猫と遊ぶこと

好きな本

- ・アルケミスト

好きな歌手

- ・BABYMETAL

好きな言葉

- ・自ら反みて縮くんば、
千万人と雖も吾往かん

長所

- ・自分の心に嘘をつかないところ

短所

- ・涙もろいところ



髪型は昔から変わっていません。



大学時代はボランティアサークルに。



馬淵澄夫代議士の当選を祝して。



社会人として教育の道へ。

政新誠意

新しい政治を、誠の意思で!

160万円。これが、何の値段かご存知ですか。

これは榿原市議会議員選挙における、私たち一票あたりの値段です。

榿原市の年間予算である約400億円に市議会任期の4年をかけて、

有権者数の約10万人で割ると、私たち一票あたりの価値が割り出されます。

議員とは、私たちの代弁者です。一枚160万円の大事な投票券を、「顔もはっきりわからない」、「普段の活動が見えてこない」、「誰がなっても変わらない」人に託すことは出来ません。

その投票権は、自分の4年間を託すことが出来る人へのバトンです。

18歳の高校生なら、大学を卒業するまでの4年間。61歳のお父さんなら、定年までの4年間。

2歳のお子さんを持つお母さんなら、その子が小学校に上がるまでの4年間。

そのバトンを胸を張って受け取ることが出来るように、私は自分の足でこの街を歩き、自分の声で想いを届けてまいります。

はぐくみの街

誰もが安心して、快適に暮らせるように!

「はぐくみ」という言葉は、万葉集に納められている一篇の和歌に由来します。

旅人の宿りせむ野に霜降りば吾が子羽ぐくめ天の鶴群

(私の子どもが旅をして、野宿をしようとした野原に、霜が降るようなことがあるならば、天翔ける鶴たちよ、あたたかい羽で私の子どもをくるんでください)

この「羽ぐくめ」という表現が転じて、「はぐくみ(育み)」という言葉になりました。私たちは、奈良時代に生まれた、この優しく愛情の溢れる言葉を、今一度、現代に活かさなければなりません。

- ・親鳥がひな鳥を守るように、お父さん、お母さんが安心して、子どもを育てられる街。
- ・街全体が暖かい羽となり、お年寄りや心身の不自由な人たちを支えられる街。
- ・地元の産業や商業、農業を大切に育て、より大きく発展していく街。

「はぐくみの街」というフレーズには、榿原市が目指すべき3つの目標が含まれており、それを指針として政治に携わることが私の使命だと考えています。

未来への投資

この街の未来のために!

かつてこの地が「南都」と呼ばれていた時代、奈良県は学問の街でした。

当時の学問といえば仏教学であり、私たちの周りにお寺は、今で言うところの

大学のキャンパスだったのです。現在でも、県内には文武問わず優秀な私立、公立高校が多くあり、立地的にも京阪神奈の大学や専門学校に通いやすい場所に位置しています。

「大阪のベッドタウン」という呼び名も、見方を変えればそれだけ多くの家庭があり、子どもたちがいるということです。

古くから学びに繋がりがあり、教育機関に恵まれ、自然や住宅地も豊富なこの環境を最大限に活かすために、行政は率先して子どもたちの成長を支えていかなければなりません。

アフタースクール制度の充実やひとり親家庭のサポートなど、子どもたちの夢が経済的な事情で妨げられることなく、榿原市の未来が続くようなシステムを構築します。